WASON
HQ
1104
J79+

Mar. 9
1889
710.152

女學雜誌

一册六錢　版權所有
當府内無郵税　各土曜日出版

明治廿二年(第百五拾貳號)三月九日發

社説

文章上の理想

論説

英米女子高等教育大勢(結論)(け、うさき)○再び娼妓の制に關する政府の改革を叙し併せて廢娼の必要を一言す(伴直之助)

批評

歐米婦人之狀態○明治唱歌、いざりび、幼稚の曲

叢話

木常柑君の逸事○女小説家○子供に信實を敎ふる事(梶夫人)

小説

理想紳士第六回(月の舍しのぶ)

寄書

文苑(鈴木弘恭大人撰)

新報

產科婦人科研究會月報○帝室に對する大不敬○佛教と女學○令閨○くされ玉子○幸福の解明、確言は洋行し和行す○女學雜誌○日耳曼の女學○萬國婦人禁酒會○女王列次○大隈伯爵夫人○外數件

外報

ベルジカム○フホーセット夫人○英國女子學位○○英國大學女敎師會○外數件

小供談

幸福を求むる種々ある事

附録

文學一斑○婚姻說○女子讀本

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 152. March 9th, 1889.

EDITORIAL:— Ideal Literature.

LEADING ARTICLES:— The Movement of Woman's High Education in Western Countries, by Mr. K. Usaki. Total Abolition of "Legal Prostitution." by Mr. N. Ban.

CRITICAL NOTES:— "The Social Status of European and American Women."

MISCELLANIES:— "Fox and Grapes." "Lady Novelists." "How to inspire the Sincerity to Children." by Mrs. W. C. Kaji.

NOVELS:— "The Ideal Beau."

GENERAL NEWS.

女學雜誌は日本の女性を代表す、日本の女性は女學雜誌の如くあり、亦如くなるべし、亦如くならざる可らず。日本の女性を知らんと欲せば女學雜誌を見よ、之に愛せられんと欲せば女學雜誌に愛せられよ。女學雜誌は日本婦人の分身にして、亦た其の教師、案內者、相談相手たるなり。

WOMEN IN JAPAN.

(1) *According to the latest statistics, there are 150 Girl's Schools and 180 Woman's Associations in the Empire.*

(2) *"The Woman's Magazine" is the first and only magazine which is Christian in its character. Of the remaining 12, 2 are edited by the Buddhists; but the rest have no fixed religious or moral character.*

(3) *"The Abolition Question" of Legalized Prostitution is steadily gaining strength. Local assemblies are debating as to its feasibility, and the Civil Assembly has already withdrawn the governmental protection of the prostitutes by closing the hospital for them, at the same time releasing their taxes.*

(4) *According to the newly promulgated Constitution, Women are not only denied their rights of being elected, but are not allowed to vote. However many are advocating "Woman's Suffrage."*

(5) *According to the Constitution, Women are not allowed succeeding to the Imperial throne. Though the same limitation is made in some of the European Countries, this seems unreasonable in a country, where no less than 10 Empresses have appeared, in the Imperial line, one at least of whom making herself famous by the memorable Corean expedition.*

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百五十二號　明治二十二年三月九日發兌

社説

○文章上の理想

是故に我なんぢらに告ん、生命の爲に何を食ひ何を飲み亦た身躰の爲に何を衣んと思ひ煩らふとなかれ。生命は糧より優り、身躰は衣もよりも優れるものならずや。なんぢら天空の鳥を見よ稼ことなく穡ことを爲ず倉に蓄はふることなし、然るに爾曹の天の父は之を養ひ給へり、爾曹之よりも大ひに勝るゝ者ならず乎、爾曹のうち誰か能く思ひ煩らひて其生命を寸陰も伸べ得んや。また何故に衣のことを思ひ煩らふや、野の百合花は如何にして長つかを思へ、勞めず紡がざる也、われ爾曹に告んソロモンの榮華の極みの時だにも其裝ほひ此の花の一つに及ざりき、神は今日野に在りて明日爐に投入らるる草をも如此よそはせ給へば況して爾曹をや、嗚呼信仰うすき者よ。然ば何を食ひ何を飲み何を衣んとて思ひ煩らふ勿れ、爾曹まづ神の國と其の義とを求めよ、然らば此等のものは皆なんぢらに加へらるべし、是故に明日の事を思ひ煩らふなかれ、明日は明日の事を思ひ煩らへ、一日の苦勞は一日にて足れり」、嗚呼是れ何等の名文章ぞや。

人の風采を見よ、其の顔ばせ白きにもあらす、其の髮の毛黒きにもあらず、其丈け丈け高きにもあらざるに、一と度び見れば靄然として慕ふの心生ずるものあり、之を仰げば巍々として高く、之に近づけば凛々として清よし、吾が濁れるの思ひ覺えず澄みて魂しひ昂々乎たり。然るに茲に顔好き女と云ふあり、目鼻の形ち古しへの女神にも似て、打笑む所ろ白薔薇の笑ふ如く、立てる樣蝴蝶の花に戯むるゝの姿たあり、若し彫刻か畵像かに於て之を見てしならば天下亦た如此く美なるはあらじとこそ云ふめれ、然れど直ちに之に接して其の風采を窺がへば、麗はしき姿たに一種の汚れを凝め、笑の奥に何となう濁りを含む、其の眼こに靈の火なし、其口に正しき守りなし、之を望んで精神快よからず悒々として恰かも汚がされたる如くに覺ゆるとあり。抑そも人の風采に於て斯る相違あるは何故ぞ、而して其風采を見て或は之を美とし或るは之を美ならずとするは何に因れるぞ、他なし是れ其の人の道徳の美なると醜なるとの差別あればなり、若し夫れ志ざし高く望む所ろ清からんには其人の風采自づからにして潔白となるべし、左れど其思ひに於て潔ぎよからざるものあり邪念常

に蛇の如くに蟠かまらんには、假令ひ好顔の人と云へども其風采亦た卑しからざるを得ず。左れば風采は猶ほ靈躰の如し、肉交へ血流るゝの間だに存す、其の存するや肉躰の後ろにあり、然れども其現わるゝや肉躰の前に在り、玄として幻の如くなれども眼こを打つと電光よりも鋭どく、彷彿として捉ゆ可らずと雖ども心を動かす金鐵よりも强よし。故に風采の美なると美ならざるとは容色の美なると美ならざるとよりも注意すべきもの也、之を以て茲に好顔にして風采極めて美なるものあらば之を最上とす、然れども假令ひ好顔なりと云へども若し其風采にして卑しからば顧みるに足らず寧ろ形ちの醜にして風采の高尙なるに若かざるべし。然りと雖ども肉の醜美に付きて論ずるは尙ほ肉の事なり、吾等もし靈に付て考ふるに至らば最早肉を問ふの暇まあるなし、此に於てか吾等もし靈を以て人を見ば人の醜きと美なるとは悉とく是れ其の風采の何如に關はるに至る、遊び女の顔ばせは花の如し然れども死せり一顧殆んど嘔吐すべし、彼の面て天の使の如く燃えたるものに比べて抑そも幾干の差ひぞ」。人もし或る風采の美なる所以、及び美なる風采の尤も感ずべき所以を知らば、則はち能く文章に於て何如なる者の善か惡きかを辨知すべし。

文章は人心の粹なり、其の激昂尤も高き處ろに於て之を搾り、其の感動尤も深き所ろに於て之を縮め、腦に於て練り心に於て叩き、斯て滴々之を筆端より落す、則はち列して一句となり編みて一章となる、文字は前後左右に配列するなり、字々の相去ると固より幾万里ありと云ふに均し、左れど無形の靈は能く之を結び、墨線の縱横したる跡一條の思考を現ず、讀む者之に眼こを當つれば文字躍然として飛動し、發する所ろの思考穿つが如くにして胸裏に入る。左れば文章は見る可らざる所ろに發して見る可らざる所ろに入る、人の心の尤も深き所ろに出でゝ亦た尤も深き所ろに徹するもの也、足なしと雖ども能く千里を行き、手なしと雖ども能く万人を動かし、或ひは暴けき武夫を泣かせ、或ひは太平の天下に革命を起す、皆是れ文章の力なり。見よ密室に閉ち籠もりつゝ能く輿論を動かすものある乎、未だ知己なくして能く公衆の知己となるものある乎、一言せず然も同時に天下に絶叫して能く万民に訴とふるものある乎、大風を起して志想を吹き能く一色の感動を流行せしむるものある乎、最高最熱の感じ永く存し幾度び之を用ゆるも能く磨滅せざるものある乎、直刺深く人の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

心中に入り彼が全身を聳やかして能く内より之を動かすものある乎、あらば即はち只だ文章にてあるべし。

文章の力らは斯く迄に強きあり、故に之を善きに用ふるときは其の善き力無上なりと云へども、若し誤まつて之を悪きに用ゆるときは其の悪しき力も亦た無上なるべし、例へば玆に卑劣輕薄なる人ありて、巧みに世の嚴粛なる道徳を嘲けり、公明仁義の無効なるとを説き、人世たゞ幸福を求むべし、畢竟の目的は黄金を拜するにありと論じたるあらんに、其の文章にして若し力らなくば可なり、不幸にして若し辭句巧麗一讀よく人を迷わすの力ありとせば、天下の讀者は案を打つて高笑し、然り人は只だ飲食すべき也、舞踏すべき也、と雷同するに至らん、此如き文章に懼るゝ所ろは其の感化の不知不覺の間に深く骨髓に入るにあり、其の悪しき風は已が儘に吹く、同處より來り何處に行くを知らざる也、左れど讀むものの心は讀みたるの後に汚がれたり、靈は鈍ぶり神は枯れ良心は餓へたり、天を見ると前日の如くあらず、地を踏むと亦た昔しに同じからず、宇宙の魔神之に魔界を見せて、彼をしていよ〳〵冷絶せしむ。

然れども此如きは此れ文章を悪しく用ひたるものなり、若し夫れ之を善きに用ゆるときは、彼の姦悪を悪み、不義に憤うり、罪に泣き、天に祈り、同情の念に胸を叩き、慈善の企だてに腸はたを斷ち、權利自由の爲に身命を抛つが如き、大凡そ其の志ざしの潔白なる其の意思の正善なるものは、當に亦た之に現われて天下の人の眼前に出づべし、古人云く英雄にして初めて英雄を知ると、然れども英雄の慷慨も君子の祈望も文章に於ては殆んど明々白々地に出現し存するなり、之を以て其人南陽に在りと云へども有爲の志想は即はち出でゝ滿天下の人に教へ、筆墨は遥かに東山の嶺きに存すとも純潔の思考は散じて億萬の心を化すべし、故に此如き文章の行わるゝは喩へば東風の薫するが如し、知らず識らずして四海を清くし、讀むものをして自づからに高尚ならしむ、彼等が靈は時雨に遭へる如くに生きかへり、良心は眼を破りたる如くに覺醒すべし、此に於てか天はいよ〳〵高く、地はます〳〵固たく、大道の行く所ろ坦々として極めて明らかとなるべし、滿界の天使は之れが爲めに舞ひ、道心尤とも温たゝかとならん。

文章に如此き相違を生ずるは決して偶然にあらず、深く其根を人心に發し、人心の浮薄なると嚴粛なると卑しきと高きと

醜くきと美なるとに因りて則ち斯る差別を生ずるもの也。故に例令ひ辭ばを巧みにし句を飾ると云へども若し之に道德の生ちなくんば殆んど見るに堪へず、恰かも是れ大裝したる美人の遊び女を業とするが如し、彼が裝ほひと彼が容色との敢て顧みるに足らざるのみか其の裝はひて美に似たる所ろあるは反つて大に毒ある處也、人の風采は高尙なる意想あるものに於て初めて高尙なるべし、故に現はれて高尙の思想を示すの文章は亦た必らずや高尙の思想より出で來らざる可からず。夫れ人一日君子と同居せば自然にして化せらる、而して清潔なる文章の人を化するは君子よりも强よし。吾人謹んで近時の日本文章を讀むに、慷歎すべきもの尤も多きことを見るなり。其の語法の至らざる、其の文法の整はざる、其辭句の巧みならざる、如此きは抑そも責むるに足らざるもの也、然れども果して今の文章の調子は何如ん、特に其の道德上の調子は何如んと云ふに、如此く浮薄卑劣なるもの丶多きは尤も慷歎せざる可らざる也、其冷嘲するものはあり、其の放蕩するものはあり、其の遁辭巧言するものはあり、然れども義烈に泣き、自由に憤ふり、道德に慷慨するもの果して幾何ありや、固より之れあり、然れども其の文章は反つてカーライルの文章が冷遇せられたる如く、滔々たる天下の讀書家は過半之を味わうことを得ざる也、而して尤も卑劣なる小說は尤も浮薄なる戲作文に乘つて橫行し、作るものも之にて得意し讀むものも之にて得意たり、嗚呼何んぞ今の日本文學界の汚れたる哉。

而して高尙なる文學の好みは一方に於て甚はだ遲く進步しつゝ、浮薄なる文學の好みは一方に於て甚はだ早く進步し來るが如し、都の花第九號「くされ玉子」の如きに至ては其の尤も甚だしきものか、今や乞食芝居に於ても尙ほ猥褻の所作を行ふことを制せらる、然るに堂々たる東都一二流の小說雜誌に於て、夜閨兩枕あり淫少年しだらなく惰欲に入るの事を細叙して載するに至りては、文學社會の空氣亦た毒を極むと云ふべし。近年英國、佛國、日耳曼國、米洲合衆國の如きは、皆な不道德なる文書の毒害甚しきに注意し、いよ〳〵法令を嚴にして如此き著作の出版及び販賣を禁止せんとし、本年スウイッツルランドに於て萬國會議を開き以て此の禁止を萬國に施行せんと計畫せり、特に彼のゾラの作に係る惡小說の如きは、合衆國及び日耳曼國に於ては夙に之が販賣を禁じたり、英國に於ては去年末國會議塲の惣可決によりて之を禁じ、佛國に於て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も近頃同樣の目的を主張せんとする協會を結ぶものあるに至りぬ、然るに我國は今また至つて此の餘毒を汲み、將に之よりして不道德文書の好みに走らんとするは抑そも何事ぞや。

之を防ぐに多くの途あり、天下の義人は多途に分れて之を防がざる可らざる也、然れども其中に於て功の尤も大いなる者に二つあり、一は女性が擧りて不道德文書に反對する事、二は女性が勉めて淸潔なる文書を著作すること是れ也。蓋し小說類の讀者には女性を以て尤も多しとなし、其の批評には亦た女性の辨を以て尤も有力なりとす、左れば苟くも社會の淸德を汚がすの書類とあれば女性は敢て之を讀まざるは固より、尙ほ嚴しく之を責めて天下に訴へ、其の批評を公衆に暴露して四海を警醒するは、實に相應且つ有力なる防禦の策たり。次に女性が其の仁愛淸潔なる思想に激されて筆を握り、淚を水とし熱血を墨とし、直ちに本心最も烈潔なるの感じを綴り出し、以て人の至情に訴たへなば、極めて淸潔なる愛情は之よりして世に知らるべく、極めて溫たかなる慈善心は之よりして世に行はるべく、極めて高尙なる思想も亦た之よりして世に現はるべし、彼は一家を和らむるの心、一家を淸くし幸にするの情を以て、則はち日本の天下を和らめ淸くし幸はいにすることを得べし。

今や女性の間だに漸やく文筆を弄するもの多からんとす、而して今の浮薄なる流行に化せられんとするものも亦た少なからず、女流の文學は今や實に善惡の岐分かるゝ所ろに懸る、もし之をして時流一般の卑劣なる方向に傾かしめば、吾人は啻に女性の爲に之を慷歎するのみならず、實に日本全國の爲に之を慷歎する也、女性の胸に眞珠かゝれり何すれぞ特更に之を糞に投與ふるか、其の愛情は潔白なり何すれぞ特更に之を汚さんとするか、汝ち彼の髮を飾り面に塗り衣を錦繡にして而して巧笑嬌音たゞ人の爲に弄ばるゝものを以て美人なりとするか、若し之を美なりとせば即はち如此き文章も亦た美なるものならん、然りと云へども眞成の美は道念の反射なり、假令ひ飾ると無く綺羅めくとなしと云へども若し其風采にして高からば即はち無上の美を現ずべき也、文章に於ても亦た如此くならずや。

子弟の放蕩に陷いる、其の行爲の氣象を失なう、其の公義に動くの念に冷却する、其の射利營々として卑劣なる賤丈夫た女子となる等、多くは是れ高尙ならざるの文書の致すところ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なり、彼の兄弟を有するの姉妹、其人子女を有するの妻母は決して不道德文書の害毒を餘所に視る可らざる者なり。嗚呼女子の事業もとより多し、然れども其の尤も容易く尤も適當に能く社會に働らき得る所ろの事業は即はち文章の業なり、必らずしも演壇に立つを要せず、必らずしも公衆に會するを要せず、密に室家閨房に在りとも尚ほ能く之を草するを得て、而して其の脱落するものは一章成る毎に即はち一章の功を世上に布くを得べし、汝ちが一滴の涙は日本の全土を潤ほすことを得べし、汝ちが一枝の筆は日本の全力を動かすとを得べし、汝ぢは假令へ敎師とならざるとも能く以て人に敎ゆるを得べし、汝ぢはたとひ未だ撰擧權を握らずとも能く以て未來の議會を制することを得べし。

論說

○英米女子高等敎育大勢（其四）

け、うさき

吾人は本篇の冒頭に揭げて「やかましき議論をなすハ本篇の主意に非らず」と云へり、今や吾人は結尾におゐてやかましき議論を述べんとせり、しかれどもコハこれ吾人自身のやかましき議論にはあらで、吾人が英米女子高等敎育の大勢を陳述するに必要なるだけ、吾人が列記しおく高等敎育論者并びに非女子高等敎育論者の意見のみ、吾人豈徒づらに辨を好むものあらんや、請ふ暫らく吾人を許るせ。

チェスター學校の敎頭ハ非女子高等敎育論者なり、千八百八十四年英國オックスフォルド大學に於て演じたる自說を一小冊子に印行したり、氏の重もなる思想を知らんと欲せば、この小冊子の卷頭に特筆大書せる文字を一瞥せよ、曰ハく「妙齢の女子を敎育するに青年男子の如くし、青年男子と共にするハ不適當、法外の極なり」と、氏の論點を窺ふに、女子高等敎育ハ現に女子が男子より待遇せらるゝ無限の尊敬を滅亡し、甚だしきハ女子の本性をさへ變ずるに至るも計り知るべからず、豈唯だこれのみならんや、女子が希臘、羅馬の學術を修めて古代開化の汚垢中に埋沒するが如きハ女子の腐敗を致さしむるもの也といふにあり、論者あり書をデイリーニユースに寄せて氏に答へたる大略に言ハく「質素なる幾多の婦人——例へば現に生活場裡に奔走して拮据勉勵せる十有餘万の女敎師を見よ、渠等が男子より享くる無限の尊敬に對して、無頓着なるにあらねど、餘りに重みを置かざるを見よ、所謂無限の尊敬なるものは渠等にパンをもバタをも與へず、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

母や妹に供給するの一助ともならざる也、苟くも富、地位、及び優美てふものなく、男子一顧の尊敬を以て女子最上の所得物となすが如き説を、堂々英國にゐて印行する人は果して何の成蹟かある、唯だ女子が長裾を曳ゐて室を出づる時、後ろに戸を開らくの慣習を男子に與ふるに過ぎず云々、これ氏が英國に於て蒙りたる駁論なりとす、米國の一婦人も亦氏の説を評して曰はく「かゝる歎かはしき反論はわれら女流の憤激を勵ますに足らず、己れらは只一笑に付して看過せんのみ、……凡そ理論に走りて實際を根據とせざる議論は寔に無用なり、請ふ女子が應さに高等教育に堪へ得べきや否なやを見られよ、己れらは幸に之に堪へえらるゝなり、これを究むるに今世紀における女子教育の改革は過去廿五年間―從前の女子高等教育論者さへ容易にこの事の實たることを信じ能はざる程の神速、靜粛の間に成就したり、當今女子高等教育を惡し樣に罵詈するが如きは智者のことにあらず抑ろも亦たこれに對して兎や角と辨解するも愚の極りとこそ云ふべけれと。

昨年五月米國ワンダービルド大學の博士バスカービル氏が女子高等教育」てふ題旨に基き演述したる中に「人或ひは言はん、吾れらの祖母等はかの華奢、博識なる娘孃に優りて能く勞働し、幸福更に多く、且つ滿足にてありしと、實に然り渠等はかくの如くありしに相違なし、從來の婦人が己れのため、家族のために或は紡績し、或は布を織り、衣服を製し、或は石鹸、乾酪を作る時、かれらは從容として喜び勇むで爲すべきの職業と考へたりき、これ内部にある生ける活動力の、外に著はれたる結果なり、今や科學は駸々として進み來りて今世紀の世界を一變せり、即はち作業は分業の法を組織し、機械は愈々出でゝ愈々完成し、家内製造物は盡くホームを去つて工場に逝く、婦人家業の過半は全く跡を絶ちたりと云ふべし、此時に當り婦人たるもの新奇の包圍物に適應するの覺悟あるを要す、これを爲んには勢ひ男子の地位に併立して業を執るの勇氣なかるべからず、かく成り行けばこそ婦人の良友は速に一方略を案出し、これに依て克く婦人をして男子の如く生活戰場に出る軍旅に適當なる設備をなさしむるものなれ、所謂軍旅の設備とは何ぞや、曰く教育これなり、夫れ教育あるものは合理的快樂に主要なる方便にして、また人間の權力と能力を使用するに肝要なる手段と謂ざるを得ず、然らば即ち誰か女子をして男子の如く幸福なる生涯を送り、高尚なる快

樂を享け、富厚なる報酬を有するの權を非難するものぞ、佛のモンテスキュー曰はずや「男女の教育平等なれば兩性の權力亦平等なり、女子の才幹——教育のために孱弱に至らざる時の才幹におゐて女子を驗せよ」と。英のジョン、スチュワート、ミルも説を成して曰はく「女子の發達は過世幾百年間、發育を妨げられたる心意の生長したる結果なるが故に、余輩は今日女子の權力が男子と差別ありや否やの問題を明言する能はず」と。……　非女子高等教育論者の抗撃する所は第一、婦人を家事より取り去るは社會の最興味を毀ふと甚だし、第二婦人と男子とは生理上相等しからざる故に男子の爲すべきことを其まゝ婦人に望むべきに非らずと、然れども大學卒業の女子にして卅歳を越ゆるものゝ甚だ小數なることは事實なり、男子すら卅歳の年輩と云へば人生立身の元始なるにあらずや、博士ルシー、ホール氏がポピュラ、サイエンス雜誌に記るせる所を見るに「大學にある若き女生は、社會にある若き女子、家内にありて飽食逸居せる若き女子よりは遙かに健康なり、渠等の健康が、初級にありし時より上級生の時一層壯健なることは余が見る所なり云々」とあり、尚この反論に對する女子の證憑少なからず」とあり。

最後に、婦人にして非女子高等教育論者の一人を言しめよ、リン、リントン夫人は近頃一篇を認め金錢上の結果よりして女子高等教育の價値を判斷し去れり、夫人の臆説に依れば高等教育を享けたる女子にして假し財を殖やすの力なきにおゐては其結局や、女子高等學校の消耗費をだに償ふに足らずして全く水泡に歸せんのみ、女子教育のために消費したる金額は女子が一と度結婚すれば何の利益をもなさずと云にあり、英米におゐて女子高等教育大勢の前面に横はる議論大抵斯の如し、讀者宜しく自から可否を決して可なり。

本篇の題旨に悖る嫌なきにあらねど、飜つて我邦女子教育の氣運を察するに甚だ慶賀に堪へざる現象を呈せり、假し疑ふものあれば請ふ昨年末女學雜誌社の手に成りたる全國女學一覽なるものを見よ、現今我邦におゐて女子の學校（内には甚だ程度の低きもののあるも）として存立せるもの殆んど百二三十校の上に出ずるを認むるならん、故森文部大臣の如きも大に女子高等教育の要を説かれ「女子の教育にして、今日の有樣を以て荏苒經過せば我國の前途に高き程度の文明は殆んど望みて得可らざるべし」とまで切言せられたり、知る可し、我邦の婦人——殊に妙齡青春の姉妹諸君は最早や舊時の壓制

的、蟄居的、無學的域内に彷徨するものに非らず更に一歩を轉じて自由的、社交的、智力的の馳場を趨らんとせるとを、否な現に標準に向つて進みつゝあるとを、自由の晃、日を期して俟つべし、記してこゝに至り吾人は沙翁が其傑作中に記るせる一句

Liberty! freedom! Tyranny is dead,
Run hence, Proclaim, cry it about the streets.

を想ひ起さゞらんと欲するも得べからず、嗚呼我邦千九百有餘萬の姉妹諸君中、克く街頭に佇立して女流のために自由を揚言するもの果して誰れぞ、女流のために自由を號叫するもの果して誰れぞ。

○再び娼妓の制に關する府政の改革を叙し併せて廢娼の必要を一言す

伴直之助

予輩は前稿の終に於て「郡部も亦た區部會と同一なる美擧を斷行せらるゝは蓋し近日の内にあらん」と豫言したり、果せる哉、去月二十六日の郡部會は常置委員の意見を用ひて、娼妓税を全廢し、貸坐敷は營業税の課法によりて、一個當を金拾錢とし、引手茶屋は金五錢とするとに決し、其の減額したる全額は金二万九千餘圓に及べり、思ふに此議決たる或る點に於ては少なからざるの痛を郡部に起せしならん歟、從來の事情を察するに品川、新宿、千住、板橋の四宿は實に郡部の金庫たり、寶藏たるものにして、郡部に於て之れを貴重せしや、殆んど疑を容るべからず、而して彼の市區の擴張論に關して郡の人民が承服せざるも、亦た幾分か茲に原因するとか聞きぬ、然れども先きに區部會は彼れの如き改革を實行せり、郡部會豈に寶藏金庫なるの故を以て此改革に後るゝを得んや、凡そ斯の如き改革は單に一人二人の意見を以て行はるべきものにあらずして、時機を得るを要す、今や區郡部倶に此の改革を斷行するに至りしもの、抑々機運の然からしむる所ならん、予輩誠とに之を賀す。

予輩は從來廢娼を主張するものなり、殊に方今日本の爲めに其の斷行せざるべからざるを信ずるものなり、而して予輩は今日に至るまで隨分冷笑を受け、誹毀を招き、非常の反對に遭遇したりと雖ども、遂に自説を變ずる能はざるなり、予輩既に剛腸なる廢娼論者なり、故に寸尺と雖ども之れに近き議論、若くは此の方向に進む所の施政の改革に際しては、未だ曾て賀意を表せずんばあらず、今や東京府は忍びて此の美擧を斷行するの端緒を開けり、他の各府縣何ぞ之を行ふ能はざ

らん」娼妓制の利を説くものは概ね、予輩を以て空論者なりとせざるはなく、世間も亦た此の空論者なりとの罵詈貶名を以て驚かさるゝものゝ如し、然かれども通常の智識道念を有するものにして、若し邪念邪情を去り、潜心虚意、靜かに此等の事に考へ及ぶときは、必らずや廢娼の説に左袒せざるを得ざるべし」或人ハ學者然として予輩に告げて曰く、社會の事物一として需要供給の理に由りて支配せられざるはなし、観よ世に菓子屋の發するハ、之を要むるものあるが爲なり、酒屋の存在するは酒を好むものあるが爲めなり、然らは娼妓の日本に在るは、豈に日本に之を望むものあるが爲めならずや」と論者に問はん「濱の眞砂ハ盡きるとも世に盗賊の種は盡きまじ」政府ハ惡事兇行の社會に絶ゑざるが故に、之を保護すべしと云ふ乎、論者は之を以て自由主義の經濟論とでも思はるゝ乎、若し果して然かりとせば、自由主義は當さに涕泣して、其の濫用を訴ふべし、予輩は政治上に於ても、教育上に於ても、經濟上に於ても、倶に自由主義を執るものなり、自由主義を執ればこそ、干渉を非とし殊に娼妓等の醜事に關しては、全く手出しする勿からんことを希望するなり、然かるに何ぞや、一國の政府が此れハ何に、彼れは何にと、煩雜なる法律規則を設け、汚穢極まる内部にまで立ち入らんとハ、况んや租税の源泉茲に在りとして、戀々するをや、知らず、論者ハ之れを以て自由主義と云はんとする乎、抑も誤れり」

第二の反對論者進み出で、該業公許制の社會の弊風を妨ぐる効あるを説く、其の論二種あり一種ハ曰く、此の法なかりせば、却て社會を淫逸にし、一國の道德を壞すべし、公許せられざるが爲めに或ハ良家の婦女偽けらるゝあらん、或ハ純正の男子身を誤まるあらん、而して私生兒、棄兒、墮胎の類頻々發すべしと、第二種の論者ハ曰く、公然たる妓廢せられて隱然たるもの出で、娼妓一變して達磨白首、地獄となり、而して廢疾人片輪者踵を接して生ずべしと」此の二種の論者は所謂る見識の俗眼以上に及ばざるものなり、昔しコロムバスの亞米利加を發見せんとするや、當時の俗人皆な之を非とせり、ケプラーが惑星運行の理を説くや、俗人の爲めに笑はれたり、ウィルベルフォースの奴隷解放論ハ久しく俗間の怒を招きたり、ジョン、ハワルドの獄制改革説を唱へたるときハ俗人之を狂と呼べり、事に大小の差、輕重の別はあれども、苟くも或る種の改革を行はんと欲せば、或る點に於て幾分の支障もあり、衝突もあるとハ豫じめ主唱者の覺悟せざるべから

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ざる所なり、左れば若し今日廢娼の説を斷行したりとせん乎、從來之に由りて利益せし儕輩、若くハ之れに向ひて利害を有する者共は或ハ幾分の不便を受くるならん、予輩廢娼の論を主唱するに當り、此の點に於ては彼輩の爲めに大に憐憫の情を催うさずんはあらず、然りと雖とも、社會多數の利害の爲めには、少數者の利害を棄てざる可からず、人力車夫に氣の毒ありとて、鐵道の布設を禁ずるを得ず、飛脚屋を憐れと思ふて電信の架設を止むるを得ざるなり、左ればにや、タトヒ多少妙齡の男女が身を誤まるものあるにせよ、又た棄兒や墮胎者の增加するあるにもせよ、之れを防ぐが爲めにとて、公然娼妓を許可して、之れを一個の營業と見做すべき道理ありや、タトヒ癈疾人、片輪者陸續出づるにもせよ、此等淫樂者の爲めにとて、政府は特別に遊廓の建設を要するの事由ありや、予輩は百歩を讓り、有るべからざる論者の空想を事實ありとしてすら、猶ほ且つ以て公許の非なるを知る、況んや實際は娼妓なるもの公許せらるゝが爲めに、却て良民の情を汚し、其の心身を穢し、彼等を驅りて、復たび救ふべからざるの悲境に沈淪せしむるおや、公許の場所ありて而して彼の諸種の弊害を醫するに足らず、啻に之を醫せざるのみならず、却て、益々社會の良民を傷害するの媒介となるに、何が故に論者は廢娼論を主張せざるや、抑も怪しむべきなり。

又た或人は曰く、遊廓の制は設けざるを可とす、然かれども行政上一の非常なる便利あり曰く偷兒盜賊を捕縛するとにして、醫師の所謂る「バクテリヤ」を以て「バクテリヤ」を制するの法是れなり」と予輩之を聞て焉んぞ驚かざらん、偷兒盜賊を捕縛するは他に道なきにあらず、唯々其の便利なるが爲めに、政府が我が同胞をして公然此の醜事を行ふとを認可すべしと云ふに至りては、決して許すべからざるの言なりと信ずるなり。

予輩は更らに考を進めて、「如何にして娼妓の如きものが我が社會に成り立ちたりや」と云ふの問題を探りしに諸の原因を約せば左の二種となるを知れり、一に曰く習慣二に曰く貧困是れなり習慣とは社會歷史上の習慣にして或は娼妓を以て恥づべきとゝせず、政府も公然之れを爲すを認可するとなり、今日の制にては婦女は公然醜業を醜とせず、或る場合にては、親たるもの是の目的の爲めに男子を生むよりも女子を得るとを喜ぶの風あり、女子も亦た己れを養ひ親に事ふるの道を學ばずして、却て身を泥海に沈むるを許諾す、而して政府

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は之れを認可し、其の無毒無害なることを公然世間の遊冶郎に保證する者也、政府が此貨物の無毒無害なることを買客に向ひて保證す、其保證は遊冶郎を狂顛せしむるに幾何の効力ありや、蓋し世の放蕩息子を持ちたるものは充分に之れが興味を知らん」第二の原因即ち貧困より起る所の賣淫に至りては救濟の方法最も困難なるが如し、然れども貧困の多分は是れ天罰あり、濫費、放蕩、怠惰、暴飲、妄食、早婚等心身の使用を誤まることなかりせば、貧困は容易に來らざるなり、否な此の事なかりせば人は益々其の富を増し、其の位置を進めざる可からざるなり、然かれども人類の不完全なる、悉とく此の善美を望むべからずして、貧困は世の多數人民に取り付くとせん乎、然かるも何ほ貧困と娼妓とは親類にもあらず、縁者にもあらず、決して深き關係、此間に存せざるが故に、貧困の婦女若し其の醜業の恥づべきを知らば勤勉力行實業を以て其の父母兄弟に事ふべきなり。

以上は實際上より觀察したる廢娼論の要領なり、之を要するに、政府は娼妓等の醜事に干渉すべからず、政府が之れに干渉して、彼此れの世話を燒くは、利益なくして却て甚だ世の弊風を助長するの恐れありと云ふに在るなり、論者は往々予輩を以て空論者なりと云ふ、故に予輩は單に實地上より觀察して此の論斷に達せり、論者も强ち公許の不利を知らざるにあらざるべし、然らば宜しく勇を皷して廢娼論を唱ふべきなり、嗚呼全國の兄弟姉妹よ、諸君は我が同胞若かも羸弱なる婦女が奴隷の境遇に在るを許さるゝや、奴隷は其の身體を苦使さるゝに止まるのみ、未だ彼の恥づべき事を强いられざるなり、然らば彼の賣女は奴隷にも增して猶ほ憐むべき境遇に在るなり、誰れか之を坐視するに忍びんや、殊に予輩は各府縣の有道者率先者たる者に望む、諸士は即ち輿論の代表者なるのみならず、實に輿論を作り出す所の元素なり、精神なり、故に日本をして淸明潔白なる美國たらしむるは兎も角も、先づ斯の如き醜案をして府縣會場の議案に上らざらしめ、議員をして斯の如き醜事を以て議塲を汚さゝらしむるとは豈に諸君の力にあらずや、東京の府會は今年此精神の端を示せり、諸君猶ほ予を以て空論者なりと云ふや。

正誤　前回の附錄論文中賦金の項「金五千二百餘圓」を金三千百餘圓と記せしは金千九百餘圓の誤

罪惡の面を數ば見ること勿れ、初めは之に耐え、次に之を憫れみ、終に之を抱くに至らん。

ポープ、

批評

(887.)○歐米婦人之狀態　中本一册(百廿八頁)定價廿五錢　發行所東京日本橋横山町榎本氏

此書はマーチン、ヘンロテン兩女史が著述を榎本梅三郎氏が反譯ありたるものなり、元本は歐米の女風を簡略に叙べたる小册子にして固より一讀の價ひあるものなりと雖ども、此の譯書は原意を失なふこと非常にして殆んど譯者が別に著述したるかの感あり、今ま其の一例を擧れば

They are a Zero in society, a burden to themselves and to their families.

とあるを、

蓋し未婚の婦人たるや其地位實に空零なるものにして未だ必らずしも之を以て直ちに一般の婦人社會と同一視すること能はざるべく將來其親族及び自身に於て自から婦人社會に算入せらるゝに至らしめざる可からざる重任を荷坦するものと云はざる可らず。

と譯したる類にて其他に此の筆法極めて多し、特にマーチン、ヘンロテンの二氏は女性なり、譯者は之を知らざる如くなる而も之を現時米國有名の社會學士なりと吹聴して恰かも之を有髯氏の如くに扱ひたり。譯者が女學に對するの好意固より謝すべし、然れども凡そ人の書を譯するには少なくとも其の文意を味わひたる後ならざる可らず、况んや好意を以て今の婦人社會に利益あるの書を供えんとする時に於てをや、吾人は實に如此き譯書の女學界に現出するを謝する能はず。

○明治唱歌。いざり火。幼稚の曲

右三書の新躰詩は皆な大和田建樹氏が著作にして、奥好義氏の作譜に係るものもある也。中にも明治唱歌は嘗て出版せられたるものゝ續きなるが、前卷に立越えて進歩したりと思はるゝ節固より少なからず、特に神と云へるとに付ての觀念の甚はだ多く現はれたるは是れ前の卷に於て在らざりし所ろなり、「首夏」及び「謠ひて謝せよ」の二篇の如きは尤も優れしものと思ふ。いざりびは明治唱歌なんどに載せざる新趣向の近作を集められしものゝよし特に面白きが多きやうなり、「なでしこ」の愛らしき、「あられ」の幽邃なる、「かへらぬ影」の無常なる、「雜」の歌の優なる中ちに、

風ひとりいくさの聲をしらぶなり月をあるじの城の高殿

の如き何ぞ其の風調の慘絶なる哉。幼稚の曲にも「あられか雪か」「わぶか子供」の如き極めて幼ならしきもあれど、大抵は大人が無理に子供となりて蝶々〱と歌ふの趣きあり、例へば「天の鎌」と云へるに、

むかふの松にかゝれる鎌はいつ來てたれのとぎたる鎌ぞ
うれしやあすはあの鎌もちてとなりの牛の行く野に出ん

の如き甚はだ面白き優美の考へなるに、結末に至り、

夜中におきてたづぬる母のねがほを見するひかりは彼よ

と云如き極めて冷たき一句を持來る類多し、遺憾限りなしと云ふべし。

今や新躰の詩歌に付て彼此と云ふもの漸やくに加われり、然るに敢て卒先して此が作を試るものは至つて少なきに、此書の著者の如く熱心に間斷なく此の大業に當らんとするの勇氣あるは實に感ずるに堪ゆ。いざり火の序に、

……十五の年の春にやありけん　するまゝに硯の墨はこくなれど成らぬ言葉の道ぞかなしきと詠ぜしをりもありし、さりとて思ひすてなんはわが志ならねば廣く世の批評をえてぞ改むべきは改め研くべきはみがかんとてをこがましくも自らすゝみ出でたるのみわれ既に一人の師なしたゞ万人の師をえんことをこそ。

此に至つて吾人が著者に感じ且つ望む所ろいよ〳〵深し。

定家卿も和歌に師匠なしとのたまへり其の子孫たちいかゞ心得玉へるをぼつかなし人丸赤人より業平貫之なぞは誰を師とたのみたるぞ又たれか師になりたるぞ(あらまほし)。

叢話

○木常紺君の逸事

空空子

或る秋天氣快ちよく晴れたる日に、木常紺君と云へる紳士其友人と連立ちて散歩しけり、偶と葡萄棚の下に來りて上を眺めたるに、最と甘さうに熟したる大きゝ一房吾を重げに下りたり、紺君之を見て携へたる毛附の頭曲りたる太ときステッキを揚げ、彼の房を取らんとしける、然るに惜しむべし稍や短かくて届かざりしにぞ、紺君急に友人を顧りみ、イヤ君どうもあれは酸ばそうです止ましやうと云ひて去りたるとぞ。傍はらに此樣を見て居たる人ありて、後にエッツプ君に物語りたるが其の談しに誤りしとありてエッツプ君は之を狐の事の樣に書れたり、左れど此は大ひなる間違ひなり。人世には間々かゝることありて左程珍しきことにあらず、甘しと思ひし葡萄が急に酸くなり、酸しと思ひし葡萄が頓かに甘くなるなど毎々ある事なり。年老けたる婦人が若き男子を評して、マアあのやうな輕卒な男にお嫁が出來やうかと嘲けるとあり、左れど或る夏の夕べ端なく之に訪はれて驚く計りに歡迎し、葡萄が急に甘くなるともあり。彼の人ならばと狂ふ迄に賞めそやしたるが、最早斷念と云ふとき仕方なく彼を貶し、茲に於

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て葡萄の頓に酸くなるともあり。余り余計にあれば甘きも酸くなり、極めて少なければ酸きも甘くなる。紺君の逸事は眞となりしものをエッップ君が誤まり記るしたるぞ殘念なれ。

○女小說家　　もみぢ

此頃の如くに女作者の多く出で來るは喜こぶべきとか否や。先づ思ふに歐米の女小說家は今の日本の女作者よりも立優りたらん、而して彼のゼヲヂエリヲットは蓋し私しよりも明論を吐しとあらん、然るに此のエリヲット女史は如此く云へり曰く、吾等は最初考へたり凡そ世の女小說家なるものは貧乏なるゆへに作者とはなりたるなり、大方他に女らしき職業のあらざるより彼の或る婦人が止むを得ずして下宿屋の主人となる如くに作者とはなりたるなり、左れば市に盲ひの老人が賣る品物を見る如く其品物は好し不恰好なりとも吾等は慫みて之を見たり、女作者の作は假令ひ面白からざる所ありとも之れ素と眞の勇氣より出で來りしものにして氣の毒に思ひて讀みたり、恐らくは夫の借財を拂ひ病める老父の藥の料となさんとては書きしとならん。ト斯樣に考へたれば吾等は女小說家の作を批評するとを肯てせざりき、固より其文章には誤まり多しと云へど其の志ざしは殊勝なりと思ひ、其の想像は淺薄なりと云へど其の忍耐は感ずべしと思ひ、空なる小說も胃の空なるが爲めと許し譯もなき空談も涙の爲めに神聖とは見つるに、否な〳〵其實際を窺へば悉とく是れ然らざりき、吾等が斯る情けある容赦を與へたるは他の多くの慈善と共に全く徒らの泣きにてありける。抑も今の女小說家の多くは馬車の窓よりして町人を觀察したる人なり、其の家來の外に働らき手と云ふを見しとあらざる人なり、香よき墨に價高き筆を浸し、出版者の損益には無頓着にて奉書紙に原稿を認めし人なり、左れば此の方々は貧しきと云へば考への貧しきと云ふとの外に經驗したるとあらざるべし……玆に必要に迫られて書きたる一人ありと云はば、彼處には虛榮の爲に書きたるもの三人ありと云ふべし……然るに世の批評家は女の作なりと云ひて特更に珍重し只だ徒らに之れを賞むるなり、然るに不思儀なるは女の作漸やくに增し女にも亦た文才ありと知らるゝに至れば此の度は亦た手ひどく批評せらるゝの日ぞありなん、女の文才が零點なりと思はるゝの日は批評の熱は沸騰點に登り、女の文才が可成に達するの日は批評の温氣も夏の熱さほどとなり、女の文才が尤も卓越したるの日は批評上の熱心は俄然として氷點に落つるなり、彼のハルリエットマル

チノウ、カーラーベル、ミセスガスケルなどの作の何如に嚴しく取扱はれたるかを思はるべし、左れば今ま女作者の作の世人に賞めらるゝは素と左程にも喜ばしきことにあらじ。抑そも女性の作の欠點は智慧に乏しきにあり、然れど若し公平に又た若し手廣く女性の小說を讀みたらん人は、其の欠點は啻に智慧に乏しき爲にのみ由らず又た道德上の性質の不十分なるに由れることを見出さるべし、即はち斯る作者は忍耐したる推敲勉强に乏し、出版の上に係る責任を感ずるに薄し、記者の藝術の極めて神聖なるとを悟るに弱はし、故に女性の小說の多くには或る確としたる礎のなきより起る文章の流暢あり、少しく自省したらば左はなかりしと思はるゝ怠けたる趣向弱き摸倣あり、蓋し耳の肥たる人は恐れて默するとき音樂の盲人のみ口を開ひて高く歌ふの躰あり、彼等は只だ書き得ると云ふが既に非常の才力なりと思ひ、書きしものが出版せらるゝと云ふが既に非常の名擧なりと思へり、然れば女性の眞成の才力は世に多き女性の作によりて反りて世人より低くゝ見らる、固より稀れに好く書きたる二三の作者は普通の女性よりも大ひに立優りたれど多くの惡しく書きたる女作者は普通の女性よりも大ひに品劣りしたり、此故に譯もなき女が啻に書かんとのみ思ひて書く如きとなからしめんとて、彼の可もなく不可もなき程の作者は寧ろ作らざるぞ善しと勸告せんとて、多くの賞むる批評家とは違ひて嚴しく批評せらる批評家こそ、實に女學の保護者として眞の勳爵士の義務を盡さるゝものなれ」、と先づ大意は此れ程に論ぜられしなり、之れ元と女性の議論なり、女性の作者方腹立てまいぞや。

アー女よ、汝ぢは多く愛し亦た多くの者を愛するが故ニ吾々も亦多く汝ぢを容ろさゞる可らず、時として汝ぢは人を怨むとあり然れども此は汝ぢが愛の裏を表に反したるものゝみ、時として汝ぢは人に罪を與ふるとあり然れども此は汝ぢが斯くてこそ其愛人に迹かれと思ひしが故のみ、汝ぢが文章を書くときには一つの目を紙の上に置き他の目を男の上に置けり、此は是れ惣ての女作者に普通なるとにて但だ彼のハーンハーン伯爵夫人の外には皆然るとなり、何んとなれば此の伯爵夫人は只だ一つの目を有ち玉へば也。

○子供に信實を敎ふる事

ホイト子ー、クラ、　梶夫人かすみ譯

人物を造出す基礎の頭石とも申すべきものは、第一神を敬愛すると、第二に信實を保つ事、第三に柔順なる事、第四自任する事で御座りませう、どう致したら子供に信實を保るとが敎られるであろうと云ふ事は、親たるものゝ思想言行に悉く信實を盡さねばなりませぬ、時として親たるものが、子供に虚言を申して欺いたとて分かるものでないとして、幼稚の時に僞りを申ふす癖を付る事が御座り升、子供と申ものは、親が思ふより存外のとを承知して居るもので御座り升、然るに

親たちは二三才位の子供に僞を申して「なにわからないから同じ事だ」と考がへて居り升、母の子供をねかし付る時に、「はやくねんねをしよおつかさんはあつちへ行きはしないから」と申ますが、心の中には眼を閉じて仕まふや否や、ソット抜けて行く積りです、または嚇していふとを聞かせやうとして「こふこうしないと巡査さんがくるよ」と云ひ、苦い藥を自分に味ふて「甘くつておいしいから呑で御覽」と申ふして呑ませまするを、苦いから、子供は母の申ふすとがうそだと云ふ事を知り升、また氣に染まぬ客人の入り來るを出迎んとして、「オヽいやだ來て呉なければよいに」とつぶやきながら其顏を見れば、はや笑顏を製造して「マァようお出なさいました」と申ふすのを聞き、幼兒は早くも親の言葉を疑ひ、自分も見眞似をして終に僞を申す樣になるは必定で御座ります。子供の心に信實を輕ずる樣に、親から仕向ますのはこれ斗りでは御座りません、時としては子供がさま〳〵の質問をしに參ります時に、まことのとを云ふて聞かせるのが面倒だとか又は親自身が知らぬとを問に來たとかで、自分のものを知らぬのをかくろうが爲に僞を申事が御座り升、格別母たるものは日、月、火、鳥などの普段見馴れてゐるものに付いて子供の問ふとをいふて聞かされる樣にして置くのがかんじんで御座り升、若し知らぬとを子供に問れましたら、知らぬとは知らぬと答ねばなりますまい、天然の事物は悉く信實を保るもので御座り升から、其天然の事物に付て問た答に、信實なる答をして遣り升れば子供の信實を保る氣象を大そうに强めるで御座りませう。

身躰上及び德義上の勇を子供に養ふてお置きなさい、大抵虚言を云ふのは親の怒かまたはしをきをこわがるから出づるので御座り升、勇氣さへあれば虚言を云ふて身をかばふ樣な事はなくありませう、ワシントンは子供の折に己の爲した惡きとを大膽に白狀いたしまして德義上の勇あるとを示しました、罰を恐れるとは子供をうそつき又た臆病ものに致し升、子供は其積でなくツイそゝふをするものです、大切な陶器をこわされるとか、客間の敷物に墨をこぼされるのは、親にとつて甚だ困却なとで御座り升が、これは罪のないそゝうですから、そういふ時に子供を罰するには「これからそんざいな事をしないやうに謹め」とよく〳〵いひ聞かせて相應な罰をあてるが宜しう御座り升。陶器をこわしたり、墨をこぼしたりするが罪と思ふやうにしてはわるふ御座り升、道德上の事

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

をとくと辨じさするが信實を保るやうになる礎で御座り升、子供の是はわるいからしてはならぬ、よいからしなければならぬといふ樣になるのがほんとうですから、善惡を辨別する樣に其良心を敎育せねばなりません。

子供は人の手本を見てから信實を保る許りでなく、自分から眞を認めて是を第一に尊敬するやうにならねばなりません、信を保る礎は矢張り神を恐れ惶こむこと、神の存在を信ずること、「神は我を見玉ふ」また「神は我こゝろの中に信實をもとめ玉ふ」などは子供に記臆させてよい句で御座り升、「かくれたる罪より我を保護したまへ」また「總ての信實なることに我を導き玉へ」などは子供が日々祈願してよろしいことで御座り升、私等の言行ともに、これに對して申し開きをせば、御神即ち殊に信實を好みし玉ふ御神にして、いかで幼きもの丶祈願を顧み玉はぬやうなことが御座りませうか。

佳傳

本號に余白乏しきに付き不得止此欄を省く。

露の世につゆときえにしわが身かな
たゞ何事もゆめのまたゆめ（太閤秀吉）

小説

○理想の紳士

月の舍しのぶ

第六回　貰つた襤褸で包んで寢ます。

此迄余は余りに吾が事のみを談したるに氣附き、茲に至りて話頭を轉じぬ、

モウ私しの事は皆な言つ仕舞つた、之からはお前の番だよ、製造所はだうです都合が好いですか、隱さずにお話しな。

裵は強よく余を見凝め、兩の手をポッケットに入れつゝ、口笛を吹き初めたり、

裵、お答へよ、本當の事が知りたいからサ。

ツウ、夫では申します、私しは實に嫌です。

突然思ひを吐露し、偶と小石を流れに蹴込み乍ら、扨て急れかに沈默し沈思したり。暫らくして、

ダガ、文さん、私しは何日までも嫌ひなのではありませんよ、モット嫌やな事にでも慣れる人があるのですから、私しも何日かは慣れたいと思うのです、實に夫で暮して居るものを嫌がるとか、立身の方便になる者を只だ快よくないと云つて嫌がるとか云は、勿論惡るいことです。

余は斯く答へたり、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

お前は年に似合はない利巧だネー。

之よりして、襄は久しく此の製造所に居らんとするや否やを問ひ、又は日々何事をか考へ又た向來に何事をか望むなどと問ひ、愛思餘りて樣々に心配し問かけたり。斯て午後の日影は余等が談話の中に漸やく傾むき去りつれど、余は尙ほ此の友人を離つに忍びずありしが、不意に心附きて彼が住所の何處なるやを問ひたり。襄は最と不審らしく、

何んと仰しやいますか。

イエ何處に住つてるのと云ふのサ、何處で御膳を食べたり寢たりするノ。

ハア其の事ですか、私しは飲食する暇と云つてッゥ餘計にありませんから、大抵は道を歩るき乍ら食べるのです、偶には道端に苺がありますが其時こそ實に御馳走です、夜食をします時は、人が皆な歸つたあとを能く掃除しまして皮を積んだ上で食べるのです、私しはお父さまが後に殘つても善いと仰しやいますから。

シテ何處に住つてるノ、何處で寐るノ。

襄は躊躇し、少しく赤面したり、

本當は何處までも寐るのです、デスガ大抵は此處に。

エ、ナニ戸の外で。

左樣です。

悚然として余は驚ろきたり、戸の外に眠るとは乞食非人の事にて正當なる人間の爲さゞることと余は思ひ居たり、

襄、なぜ、どうして、お前はそんな事をするの、エー。

何故と云ひますとネ……

襄は余が傍はらに來り、余が疑ひ、心配を全く推察したる如くに身構へし、然し乍ら凡そ何事をも自らの判斷に隨つて爲し敢て愧ぢず掛念せずと云へる樣を示して、答へたり、

何故と云ひますと、御覽なさい、一週間に七十五錢貰ひますから一日に先づ十錢でせう、其中から食べるのに六錢……私しは斯んなに大きいものですから何如しても六錢丈けは入ります、シテあとに四錢しか殘りません、之で何處かに置いて貰はうかと一度二度は試みましたが、然しモウ全く斷念しました、寧ろ私し一人で此の新らしい空氣を吸つた方が餘程愉快です。

ヲー、襄よ、

余は思はず彼が手を握りたり、もし女ならましかば泣きたらんものを。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

イヽエ、少しも悲しひとはありません、何んなにか愉快でせう、夜中に時として目を覺して天の星を見て御覽なさい。

ダガ夫では寒くはないの。

イヽエなか〱、私しはあの皮の中を少し窪めて穴を造りまして、そして此の貰つた襤褸で包んで寢ます、夫に毎朝早く起て河で泳ぎますから、一日温たかです。

余は身震ひしたり、水と聞てのみすら身にゾットしたり、然るに彼は斯迄に丈夫にて斯迄に勇氣ありしよ、扨ても〱浦山しき哉。

然し冬になつたらどうおしだ。

知りませんが、どうかしましやう、大方燕めの樣にしましやう。

急はかに考へて答へたるが、何事を申したるか裏自身にも決して分らざりしと見へたり、益し余が斯く問ひしによりて、彼は初めて心附き大に心配し暫らく無言なりし。

鎌倉の時執權青砥左衛門嘗て好算の者を徴す其募に應ずる算士ありて試驗を請ふ藤綱の曰く錢一貫文を二人に分つ時は幾何なりやと、徴士の答へ何如ん。

寄書

○文苑

女子學問の方向を論ず

鈴木弘恭大人撰　江間久米子

おしなべてをみなたるものゝ學問は。あながちに外國のことまねぶべきにもあらす。只おのれの智と心とをみがくにあり。然れば先づいかなる敎へを㭗めてんといふに。洋學に入らんか。はた和學を學ばんか。西洋とてまたく〱よしとしもいふべからず。我國とて悉くあしき事もあらざるべし。我等は日本の女子に生れ。日本女子たるの責任をつくすべき身に非ずや。しかるに生れし國の事をしらず。只近き頃の流行につれて外國の學問のみを崇め。我國の書典などは目もふれずして ありながら。我は明治聖代の女學生なりといはぬばかりのさまして。大路をねり行くはいとかたはらいたきわざならずや。實に此の如くありさまならば。婦人社會の勢力は何れの日か振ふべき。妾等が常に歎息する所なり。妾等はつとめて心をこゝに用ゐ。まづ我國の概略を知りて後こそ何れの學問をもまなぶべけれとは思へり。然れども學問をして只交際上の器具となすことを欲せず。ひとへに婦人社會に有益なる結果をあらはさんとこそ願はしけれ。さて婦人の勢力はもとより上帝より賜はりたる天稟にして。鬼神も之を奪ふべからず。即ち男子と立ち竝びて共に國家の器具なり。ゆへに女學の旺なる時は國勢も亦盛なるに至るべし。嗚呼女子の責任もまた大なることにこそ。

同　小山倉野子

凡人は男女を問はず靑年のうちに早く意の向ふところを定めて。彼のゆらのとを渡る舟人の梶をたえ浪のまに〱たゞよふが如くあらざらまほしくこそ。おのれら今よりいかなる目的をか立つべきといふに。女はふるくより男のわざとは自然にことなりて。その務むべきすぢなく〱いと多かりけり。そもそも昔の女は家にありては双親に仕へ。嫁しては夫に從ひ。兒をはぐゝめば。それにて事足るやうに思ひつべけれど。今よりは學びのみちもいや進みゆけば。只一家を守るのみにては。足れりといふべからず。かならず國に盡すべき慈善のこと。敎育のことまた病人の看護のことの如き。女に適當なるわざくさ〲あれば。是等のことにも力をつくすべきなり。されば女の生れつきに適ひたるわざを取ることそ必要ならめと思へれば。學びのいとまはこれらの事をも忘れず勉め强むは。まことの女の務めといふべからんかし。

新報

(此の欄内自由に轉載を許す)

○産科婦人科研究會月報

二月二十日第一號を出版す、會は府下日本橋矢の倉町にあり山本文次郎氏編輯人たり。此號には櫻井郁二郎氏の神經性一奇症、楠田謙三氏の複姙と複娩の説、櫻井三之介氏の初生兒謀殺識別等の演説筆記を載せ、他に會筵余談と云ふもの九章を載せたり。産科婦人科の講説に付ては獨一無二の有益なる雜誌たる也。

○帝室に對する大不敬

前號に注意したる米人カーペンターと云へる者がバーリントン日々新聞に於て記載したる一篇は、事わが帝室に對する大不敬の文字にして、陛下の臣民たる吾人の如きは之を一讀して殆んど絶怒したり、將に本號に於て大ひに之を論駁せんとしたるが再省して更らに大ひに憂ふる所あるにあらず、古人曰く子は父の爲に隱くす直きこと其中に在りと、今まや吾人は轉た此語の情に切あることを歎ずるもの也、嗚呼外人をして吾帝室の神聖に對し、皇帝皇后兩陛下の御間だ柄に對し、典侍權典侍の職掌に對し、敢て無禮なる評言を加へしむることは抑そも日本臣民の容赦すべき所ろなるか、吾人は直言の罪を得るを恐るゝものにあらず、只だ唯だ今に於て默するの實に止むを得ざるものある也、痛歎、慷泣、暫らく來日を待つ、

○佛教と女學

女人講、最勝講など云ひしは古くより在りし事なれども、佛海は到底女性の優待せられざりし所ろにて古來甚しく無情に取扱はれ來りたるに、文明の大風は亦た佛者を其儘には亂暴せしめず、二三年來多くの女學校女學會が佛教社會に出現したるは異常の珍事たり。吾人夙に之を公報して大ひに女學の爲に感謝したるが、近來に至り其氣運更らに止まる所ろなく進歩するが如し、之れ實に喜こぶべきことにあらずや。例するに、本年一月以降廣島高等女學校は一切、縣内の眞宗信者にて其經費を持切り、更に二萬圓の義捐金募集に着手したる事、及び二月廿五日東京築地別書院に於て東京坊守敎會第一回を開き之よりして全國末寺坊守講を一層引立んとする事の如き、本年に入りての特に著るしき運動なり。

○令閨

私立大坂敎育會雜誌に、粟國の一愚生と云へる名にて左の如き質義を寄せたり、

名は實の賓と申すことは古書にある計りでなく至極適當の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

語と存じ候。さて此頃人の細君を令閨と申すが流行しますがこれは閨門を令するとて家事を取締る人と申すことで令は號令指揮の意義にや、さりとては令嬢令息のときみ差支相生じ候に付この令は矢張り令聞なぞと申す令と同じくよき何々と申す形容詞と存ぜられ候。然らば妻若くは夫人の意味は專ら閨の字にありと申しても不都合無之義と存じ候。閨の字は愚生が人に聞し處では寢屋即はち寢床と訓する樣なり。若し然らば人の夫人をよきねやと申しては其女性を浦鬪視するあり寢床視するなり肉屛風肉浦鬪と申すこともあれば令閨の尊稱少しも差支へなしとあればいざ知らず實の賓たる名にして肉浦鬪にては男女同等などの語は嘔氣にも出されぬことゝ存じ候。愚生が薄識なる閨の字を解するに苦しむまゝ貴會の大雅に伺ひ奉り候。かの牧民の官とて牧養の意味にて牧羊者の羊を追廻す如く出來るものでないことが分りて來て今は地方官を牧民の官と云ふことも止みたる樣に相見へ候。招狀面などに恬然令閨の文字を見ることあれば必らず正當立派なる明解の有ることとは寸毫も疑ひを容るべき筈なし云々。

御尤ものお問ひ、感心な御心配、殆んど謝する計りなり、然し名は實の賓とあれば、實が變れば亦た名の意味も變はり申すべし。今日云へるミニスター（大臣、公使）は素と奴隸の義なりし、今日云へるチヤンセロル（尙書）は素と門番の義なりし、今や女性に關するの名字は大抵惡意卑意を示す、要するところは其實を變へて其實に對するの觀念を變ゆるにあるのみ、吾人が必らずしも妾の字を嫌はざるは亦之が爲め也。

○くされ玉子

都の花第九號の「くされ玉子」は能く穿ちたるに相違なし、亦如此き穿ちによりて世の僞善者を筆誅するは固より宜しきとならん、然れども彼の下篇閨房の記事の如きは抑そも何の必用ありて敍し來りたるぞ、實を寫す事固より美術の一方たり、然れども只だ目的なく否な尤も惡くむべきの目的を以て特更らに人の臟腑を暴ばくは抑そも高尙なる文學者の敢て爲すべきとなる乎、當今の文壇堂々として如此き辭筆の横行するを見る我が國運の爲に慷歎せざる可らず。「都の花」にして若し斯の如くば今後良家の淑女は決して之を讀む可らず、良家の父兄は斷じて之を戸内に入らしむる可らず。

○幸福の解明、確言は洋行し和來す。

ワシントンの金言に、農者人民職業中尤も尊貴尤も健全而

尤有益者也、の句あり、津田仙翁蓋し之を米國農務局の年報中に發見して之を農業雜誌の序字と爲たるに、米國の官吏之を見て甚しく珍重し遂に農業雜誌に由て此語を博覽會の額に認め出したりし。然るに之と同樣なる一奇談と云ふは四年前に吾社員が材料新誌なるものを編し、其の第一第二の兩號に幸福の解明廿三條を集錄したりしに、米國のポピウラルサイエンス雜誌は之を珍らしきことに思ひしか、此頃之を譯採して其紙上に掲載したり、而して吾が時事新報記者は亦た之を珍らしきことに思ひ、遂に之を種として三月四日の社說一篇を草したり。

幸福はさまぐ\なり、幸福の解明集が斯く迄に珍重せらるゝも亦た社員が一種の幸福なれば、試みに元と材料新誌に掲げたりしものを左に載せて讀者の一笑に供すべし。

幸福とは大ひに望みたる者又は大に要したる者を收得したるより起るものなり(ライプニッツ)。
高樂なる性質是れ幸福なり(ペスタロッヂ)。
害惡を襲むることなき是れ幸福なり(エピキウラス)。
平和是れ幸福なり(佛)
道德上に自由なる是れ幸福なり(カンパ子ルラ)
自ら可なりとする是れ幸福なり(フヒクテ)
德ありて教化すると是れ幸福なり(セ子カ)
五千磅の入金あらんと是れ幸福なり(ボルソン)
幸福とは健全なるなり(ヘレベチアス)
健全にして好運なるなり(ヂデロット)
心と躰との力一樣に發達すると幸福なり(スパースハイム)
神と平和なるなり(エッカート)
勝利これ幸福なり(シモニデス)
自ら改良するの樂これ幸福なり(ホッブス)
成功これ幸福なり(ボリングブローク)
高名なる國の民となれること是なり(ヲホクル)
健康と書籍と獨孤なるなり(ヂンメルマン)
健康と富と自由の教育とこれなり(ダレンベルト)
暴君と不德との亂虐を蒙らざること(ロウソウ)
銀行の貯蓄よく料理の鰥務甘く且つよく消化する此れ幸福なり(アドモンド、エバウト)
繁雜には安固なり繁昌には稀度なり此れ幸福(アナキサゴラス)
終身の樂讀書にあり(唐人)
樂は夕が棚の下すゞみ男はてゝら女は二布をしてと此れ幸福ならん(里謠)

而して今や左の二條を加ふべし、
幸福はホーム即ち內を成すと也(時事新報記者)。
幸福は道を踏む即ち善を成すと也(女學雜誌記者)。

○女學雜誌

出版月評第十七號は女學雜誌を評して左の如く云へり、

高傑清美の心を持つ者にあらされは亦た女學雜誌の眞價を知る能はす世人往々女學雜誌を貶して冷淡と云ひ偏窟と云ふ然れ共予評記者は實に女學雜誌を愛讀する者なり而て世益々健康多群ならん事を祈るものなり夫れ然り予評は實に女學雜誌を好みて讀む故に其決して冷淡ならさるを知り又偏窟ならさるを知る女學雜誌は實に熱心なり公明なり之を貶する者は其眞價を知らさるなり冷淡といふ者こそ冷淡なるならんか偏窟といふ者こそ却て偏窟なるなからんか女學雜誌は神聖絕美精神的の教育を主唱して形而下の生活を賤むものなり教へされはこそ清水の心も濁るなれ磨かされはこそ水晶の光もくもるなれ女學雜誌は不幸可憐の民を救ふて福德無量の人間海に游泳せしめんと欲する者なり女學雜誌の此目的旨義は之をして四年の日月を經過せしめたる所以又其聲高をして他雜誌に超拔せしめたる所以なり之をあらゆる坊間尋常の女學に關係したる雜誌と同日に論するは抑も誤れり女學雜誌の社說は時々不感服の事なきにしもあらずと雖

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も北時論松の緑の色變へす終始一定の見識と自尊自重の氣味合ひあるは予輩か感服する處なり婦女子脩身の覺悟將來の日本人の諸議論は随分一讀の價値あり兹に雜誌記者に一言せんに餘り道德論の熱に狂して人生固有の自由を傷くる勿れ法律の區域をせばむる勿れ記者は雜誌百三十九號の雜錄欄内ニ藝娼妓は公に立出つ可らすと題して曰く「、、、近來は藝者にして議員に勸告書を送り又た娼妓にして納税の事に建白書を呈したるものあり、、、此の如き放流は一切公事に喙を容るゝを許さず彼等は只た面を隱して黑夜の中にひそみ居る可きものなり」と記者は彼等を賤しむと同時に宜しく其自由を重んず可し勸告書を送り建白書を呈するは藝娼妓か爲すも紳閣貴婦か爲すも法律は之を禁ぜざる事を知れ彼等の勸告書建白書にして若し奏効せりとせば彼等もまた我國にては一分の功あるものなり若し我か同胞彼等を人並の人間と視さる以上は彼等幾百通の勸告書幾千通の建白書を呈するも誰れか之を相手にせんや此の如きとは女學雜誌か論せずして可なり、女學雜誌の小説は淡泊甘味の感あれどもまた其中に随分清麗秀逸の味なきにあらず左れと漸く佳境に入るに及んで中絶せると往々之ありたびくの中止ありては雜誌記者も讀者に對し違約の罪は免れざる可し

知己の言は之を謝し、勸諭の辭は之を銘す。

○日耳曼の女學

或人日耳曼の女を評して、其粹は眞實にあり、節儉にあり、と云へり、左れば其反對として女子高等教育の事の如きは遙かに英米に劣る、曩ゑ大學中に女性の寄附者の像を置くとにすら多少の異論ありしによりて其一斑を知るべし。然るに此頃吾人が落手したる最近の日耳曼女學の報告中には、左の如き事件あり、

日耳曼國の諸大學中、女子が臨席して講義を聞き得るはチウリッヒ大學のみなり、女學生七十人あり其中ち米人英人ポーランド人スヰツルランド人等多ければ純粹なる日耳曼の婦女子は固より左程に多からず。

女子が生計の爲に獨力營業すると大ひに進歩せり、特に上流の貴婦人にして金を採る爲に著作するもの漸やく增加せり、例へばワイスバーデンと云ふ六萬人の住居ある小さき都會にても男子の記者四十三人にて女性の執筆者七十六人あり。之によりフハンチー、レワルド女史は一枝の筆にて三萬弗の利金を得たり。

女學雜誌類は尤も舊るきがライプシックにて發兌するルイ、チツト、ピータースの雜誌なり。又數年前に出來たる女新聞(フロイエンゼイツング)あり。又スタットガルトにてツール孃ハウスセル夫人等が出版するアルキチと云ふ雜誌あり。

○萬國婦人禁酒會

米國の婦人禁酒會率先し、マリークレメントレビット夫人全世界に遊説し、遂に一千八百八十三年(明治十六年)に於て礎を置え最初はマルガレット、ブライト、ルーカス夫人其の會頭となり、今はウイルラルド孃之に代わられたる彼の萬國婦人禁酒會は、其の支會ある所ろに副會頭一名を置くの定めにて、現に定まり居る萬國の副會頭は左の如し。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

President—Miss Frances E. Willard, Evanston, Ill.
Corresponding Secretary—Mrs. Mary Clement Leavitt, care Miss Amy Leavitt, 1212 L. St., N. W Washington, D. C.
Vice Presidents—England, Mrs. Margaret B. Lucas, 7 Charlotte St., Bedford Square, London.
Canada—Mrs. Letitia Youmans, Picton, Ontario.
France—Miss De Broden, 3 Rue Clavel, Paris.
China—Mrs. Dr. Farnham, 18 Peking Road, Shanghai.
Japan—Mrs. Kachi Yashima, 28 Nakarokuban-cho, Tokio.
Hawaiian Islands—Mrs. Dr. Whitney, Honolulu.
New Zealand—Mrs. Packe, Upper Riccarton, Christ Church.
Queensland, Australia—Mrs. Brentnall, Brisbane.
South Australia—Mr. Rev. Rice, Adelaide.
Victoria—Mrs. Mary M. Love, Armadale, Melbourne.
Ceylon—Miss M. W. Leitch, Oodooville, Jaffna.
India—Mrs. McDonald, F. C. M. Calcutta. Nat. Lecturer, Pundita Ramabai, Poonah.
Burma—Miss Ruth W. Ronney, Rangoon.
Turkey—Mrs. W. E. Locke, Philippoplis, Bulgaria.
Africa—Mrs. James Denholm, Roodebloem, Capetown.
Mauritius—Mrs. Bishop Royston, Bishop Thorpe, Rose Hill.
Siam—Miss Mary L. Cort, Petchaburee.
Sweden—Madame Andersson-Meijerhelm.
Straits Settlement—Mrs. Marie Oldham Anglo-Chinese School, Singapore.
World's Organizers—Europe, Miss Charlotte A. Gray, Coombe House, Hornsey Rise, London, England.
Northern Europe—Madame Andersson-Meijerhem, 17 Sodra Humlegardsgatan, Stockholm, Sweden.
American Committee—The five General Officers N. W. C. T. U.
Secretaries—England—Mrs. Mary Whitall Costelloe, 40 Grosvenor Road, Westminster, S. W. London, England. America—Mrs. Mary A. Woodbridge, Ravenna, Ohio. Switzerland—Mademoiselle Frey, 6 Kirchgasse, Aaron.
Treasurers—England—Mrs. James Gregson, Heart's Hill, Debden Green, Loughton, England. America—Miss Esther Pugh, 161 LaSalle St., Chicago, Ill.
Supt. Department of Temperance Literature and the Press—Mrs. Mary B. Willard, Nettelbeck Str., 21, Berlin, Germany.
Supt. Department of Bible Readings—Mrs. Hannah Whitall Smith, 44 Grosvenor Road, Westminster, London S. W., England.
Supt. Department of Scientific Temperance Instruction—Mrs. Mary H. Hunt, Hyde Park, Massachusetts, U.S.A.
Supt. Department of Prisons, Police Stations and Almshouses—Mrs. J. K. Barney, Providence, R. I. U. S. A.
American Supt. Legal Dept.—Mrs. John P. Newman, 333 C. St., N. W., Washington, D. C.
Supt. Exposition Dept.—Mrs. S. D. Nichols, Indianapolis, Ind.

○女王列次　今般皇室典範御治定ありたるに際し各皇族方の列次を定められたるに付女王の列次をも左の如く定められたるよし、
伏見宗諄女王。伏見文秀女王。久邇宮女王。榮子女王。安喜女王。飛呂子女王。
晴子女王。素子女王。篤子女王。純子女王。

○大隈伯爵夫人　は是まで毎月曜日を以て來客面接日と定めありし處先日實母三枝芳心院の喪に丁り暫く接客を斷り居られしが去る四日の月曜日より從前の通り來客に面接せらるゝ由。

○幼稚園　淺草向柳原の柳北女學校附屬の幼稚園は兼て開園の計畫ありしが去る一日を以て開園式を執行せり。

○同志社大學の爲めに　佐々木豐壽潮田ちせ兩女史の發起にて厚生館に於て音樂會を開かるべし委細は廣告に就て覧るべし。

○福井中學校女子部　福井縣にては今度縣會の決議に由り中學校内に女子部を設くることになりしと云ふ。

○婦人慈善會　京都婦人慈善會は去る二日京都府立盲啞院に於て開會し津田義三郎、足立健三郎兩氏の演説等ありて頗る盛會なりし由。

○慈惠院設立願　大和添上郡九條村小川彌平及び杏村小西民藏兩氏は今度慈惠社と云へるを設立し棄兒、貧兒、迷兒等を養育し之れに適當の職業等を授けんとの目的にて其筋に出願したりと云ふ。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○ベルジウム　ベルジウムには貧女にして職業に從事するもの二百七十萬人あり然るに此頃ろ代言人たらんとを出願したる婦人ありしに許されざりしと云ふ。

○フホーセット夫人　は今度新設せられたる西スコットランドの婦人聯合改進黨(Women's Liberal Unionist Association.)の長に撰ばれたり。

○英國女子學位　英國の女子には學位を受るもの少なかりしが今ま「英女批評」の報ずる所ろによればヱリザ、ヲルム孃は倫敦大學よりレチ、ア、ワシントン孃は愛兒蘭大學より共にバッチロル、ヲフ、ロース(少博士)の學位を受たり。

○スヱーデン　のランド大學には十一人の女學生あり。

○英國大學女教師會　の會員は現今二百二十二名にて會長は詩人アーサー、ヒウ、クラフの妹クラフ孃なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○女子政治クラブ　此頃ろ紐育ロチエスターの女子政治クラブの年會ありて、會長にはグリーンリーフ夫人副會長にはフレー夫人書記にサンフホルド夫人通信書記にアンソニー孃撰定せられたり。

○ゼー、ゴールド夫人　米國有名の豪商ゼー、ゴールド氏の夫人は元と八萬弗の持參金を以て氏人に嫁したるが之れ即ち今の巨富の基ひとなりしなりとぞ、然るに半途にてゴールド氏は此の八萬圓を別途にして利子を附すべしと約されたる由なるが此頃同夫人死去の時迄に二百萬弗となりたる由、而して夫人は遺言して之を其の孃君中に分ちたり。

小供談

○幸福を求むる種々ある事　（喜の音）

或る所に一人の隱遁者あり、世間を離れて森林中に住ひし其友とする者は鳥獸又は昆虫の類のみなれば隱者は遂に彼等と談話する程によく動物の語に通じたり、或る日の事隱遁者は木の下に眠り居りしがはや夕方となりし頃鴉、鳩、鹿又蛇の類各自塒求めんと打集ひ來りしがまだ眠るにははやしと見え互に世の中の困難につきて語りはじめたり。先鴉のいふやう「ガア〳〵諸君、元來困難といふものは飢餓より來るものなり、若し諸君が十分に食物をくらひ安心して枝にとまりし時は目に觸るもの耳にきくもの一として吾人の生活を幸福ならしめざるものなし然れども若し其食ふべきものなく次第に腹が飢り來る時は滿目丸で其趣を異にして神經は鋭くなり一ヶ所にとまり得ずはや一分も坐しては居られず若し何か食物の一塊をでも見たらんには猶々心安からず考もなく忽ちに飛びつきて打れもすべく石にもあたらん、犬も待つべく狼も居らざらんや、あゝ危いかな吾鴉は多く飢渇の爲に是くして生命を終るものなり故に困難は凡て飢餓より生じ來るといふべし。

是くきゝて末座に居たる鳩はいふやう「余の卑見を以てすれば困難は飢渇より來るにあらず困難は皆愛の一事より來るものなり其理由如何と尋ぬれば若し吾鳩が獨居の生活を爲し賴らるゝものあらざる時は敢て困難を見ること稀なり、よしわるにもせよ唯一人の困難なり然し若し妻を娶りて人並吾鳥并の生活を爲さんとせば妻を愛するが爲に心の休まる時はなく明ても暮ても心にかゝるは妻のこと妻は十分に食ひしか、妻は暖く爲し居るやと心配し又長く其姿を見ざる時は人にでも捕られはせぬかあの鷹の爪は恐ろしや罠はありとも見えぬものと心痛の絶るときはなし、若し不幸にして死なれでもして見られよ食がありても旨からず枝はありても眠られず自己をさへに危くせり實に困難は愛情の一點より來るものなり（未完）

れの結辭　めれの結辭　ぬれの結辭　つれ　まじけれ　め　まーる　なれ　なめ　けめ　らめ　てめ　はも徒を受るきの結辭　はの係辭

れ第三段ころの第四の結辭　枝にこそあれ　このれの結辭は歌の中間にある例を見ず

○けれ　此なる第五のけれはけりけるけれと活らきて既に然かありし事をいふ一の助辭なり。第一のけれは用言活用第十一形狀言なるくしき格の活らきなればしきけれさ活らきて現在の詞なり。混ずへからず。詞瓊錄第九卷廿六頁以下丼に十四卷五十七頁に出せる係辭と結辭との表ヲ示したる第一の結辭を參見すべし　秋をおきて時こそありけれ

○めれ結辭　わさとこそくりはなつめれ

○ぬれ係辭　我が身こそ悲しきものと思ひしりぬれ

○つれ係辭　名にこそ君を待わたりつれ

○まじけれ結辭　をらでハえこそかへるまじけれ

○め係辭　若菜ハつまで年をこそつめ

○ましか結辭　春ゆくとこそよそに見ましか

○なれ係辭　そほづこそおのがたのみを人にかくなれ

○なめ係辭　深き谷こそあさくなりなめ

○けぬ係辭　逢までの形見とてこそとゝめけめ

○らめ係辭　あさみこそ袖ハひつらめ

○てめ係辭　けふこそ櫻をらバをりてめ

係辭と結辭とを證する歌ども右に擧たる他のを種々とりまじへて掲出す

にき　助辭の一種にてはも徒を受てむすぶ過去をあらはす詞なり　古今集「よるべなみ身をこそ遠く隔てつれ心ハ君が影となりにき」

もの係辭　徒の格　そのや何を受るにしの結辭　ぞの係辭　やの係辭　何などいくの係辭　はも徒を受るてきの結辭　はの係辭　もの係辭　たゞの格　そのや何を受るてしの結辭

後撰集「菅原やふしみの里のあれしよりかよひし人の跡もたえにき」

源氏竹川「流れてのたのめ空しき竹川によはうき物とおもひしりにき」

にし　にきとおなじ意の助辭にて過去をあらはす詞なれど彼ハはも徒を受け此ハぞのや何を受く　古今集「しての山ふもとを見てぞ歸りにし」つらき人よりまづ越じとて　○の係辭にハ證歌みえず　後撰集「影だにも見えずなりゆく山の井ハあさきよりまた水やたえにし」　新古今「八重ながら色もかはらぬ山吹のなど九重にさかずなりにし」　和歌所歌合 隆家「神代よりいく世か經にし」をとめ子が袖ふる山のみづがきの松

てき　助辭の一種にてはも徒を受て過ぎ去りしさきの時をいふことばなり　古今集「うたゝねに戀しき人を見てしより夢てふ物ハたのみそめてき」　萬葉集十三「かへりにし人を思ふとぬば玉のその夜ハ我もいもねかねてき」　後撰集「しら雲のみな一むらに見えしかど立出て君をおもひそめてき」

てし　てきとおなじ意の助辭にて彼ハはも徒の結辭となり此はぞのや何の結辭さなる共に過去の詞　古今集

第百四十三號へ續く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぞの係辭

何たれいくの係辭

はも徒を受るつゝの結辭

はの係辭

もの係辭

たゞの係辭

複係辭ぞとは

やとは

「よしの河いははなみ高くゆく水のはやくぞ人をおもひそめてし」てしも前なるてきも共に中間にて結べる歌なし又のさやとの係辭を受し證歌見えず

拾遺愚草「ねにたつる鶏のたれ尾のたれゆゑか亂れて物をおもひそめてし」續後撰いくとせかなきふるしてし」ほとゝぎす神なび山のさみだれの空

つゝ　助辭の一種にて即ち過去のつを重ねて作れる詞なり。中間に在るときはながらといふ意にも通ふ。後撰集「うーと見つゝもなほ頼むかな

古今集「君がため春の野にいでゝ若菜つむ我が衣手に雪はふりつゝ」同上「山さくら我見にくれば春がすみ峯にも尾にも立かくしつゝ」

同上「風ふけばおつる紅葉水きよみ散ぬかげさへ底に見えつゝ」

係辭の複あれるときは其重きかたにて結ぶ例を示す

ぞとは　ぞへはよりも重き係辭なり　古今集「おく山に紅葉ふみわけ鳴鹿の聲きく時ぞ秋はかなしき」しきはぞのや何の結びにてはの結びはしなれども秋はかなし」といはすーてぞをーきにて結べり

やとは　やへはよりも重き係辭なり　今古集「秋萩も色づきぬればきり〱す我がねぬごとや夜はかなしき」

ぞとも　はとこそ　や係る結辭同せぬ同の　いづら係辭ん結辭同やれん同　は係ぬ結　はぬ同　もし同　ぞ係る結　や同同

ぞとも　ぞへもよりも重き結辭なり　後撰集「なる戸よりさし出されし舟よりも我ぞよるべもなき心ちせし」此なるしへ過去の志にして第二段（ぞのや何）の結辭なりもを結ぶときは爲つといふべきなれど然へいはで爲ーといひてぞの係辭を結べり

はとこそ　こそへ重き係辭にてはへ輕し　貫之集「唐衣わたらしくたつ年なれど人はかくこそふり増りけれ」はの結辭へけりなれどけれといひて重き係辭なるこそを結びたり

一首の歌の中に係辭結辭のいくつもあらはるゝ例

拾遺集「ちぎりけんほどや過ぬる秋の野にたれまつ虫の聲の絶せぬ」このぬは打消の助辭にてずぬねと活らくぬなりぬぬるぬれと活らく助辭と思ひ誤るなかれ

拾遺集「おほつかないづこなるらん虫の音をたづねば草の露やみだれん」

古今集「あきは來ぬもみぢは宿にふりしきぬ路ふみ分てとふ人もなし」

後撰集「しのゝめにおきて別れし袂をぞつゆやわ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て、且つ美麗なり、此性の人ハ古より今に至るまで一番人間の體格上にてハ完全のものを出せり、余も此階級に屬する人の中より眞正の人間の完全なる雛形を出し得べしと考ふるなり。

博士パウエル氏は此性の一人として彼の有名なる將軍ワシントン幷にエドハード、ベレツト氏を引きたり。

膽汁質的の性

膽汁質的の性の人は其人の一躰の態度、容貌なんとあくきりゝとして、筋肉なども濃厚にして、活潑の擧動に適し、骨格も從てよく發達し、毛は黒くわらくして屢々ちゞれ居り、白人に在りてハ眼は多くこき鳶色にして、顔色は少く黒味あり、少しく黄味を帶ぶ、額は多血の性と同じく後に引込み、鼻は通例よりも大なり。

此性の一種にて毛髪赤く、顔色赤く艶あり、眼ハ薄灰色にして青味を帶ぶるものあり、此性の人は多くは黒き毛髪の人、温暖の地より寒冷の國に移住せしとき此樣になるといふ、人相學者博士ピツチヤド氏は曾て其實驗を記して曰く、彼の率ろ黒色の猶太人は北方スタインより北方獨逸に移住して、赤き艶ある色を有つ子を生めりと、又此顔色の變化は啻に人類にのみ限らず、鳥類に於ても亦同じ、阿非利加に產する七面鳥を取りて亞細亞の北部サイバリアに移す時は、其羽毛白色に變ずと云、此く全く表皮のみの變化にして、全く此動物をして氣候の變化に適せしむる爲ならんと察せらる。

氣候に依て顔色變ず

此の薄黒き膽汁質の性の適例として引用すべき人は、瑞典王たりしガスタバス、アドルフォス、佛王フランシス第一世、ペリユーの戰勝者ピザローの如し、ガスタバス、アドルフォス王は有名なる賢王にして良將の譽れ高き人なり、

アドルフオス王、フランス第一世

第二　不活質の性

不活質の性

活質、不活質の意味

活質不活質の兩質は英語にてヴワイタル及ひノンヴワイタルと申し、活力の強き意見よて、活潑不活潑と譯しても宜しけれども、日本語の活潑不活潑と云ふは、重に精神上より云ひ、原語のヴワイタル、ノンヴワイタルは啻に精神上のみあらず、且つパウエル氏は重に形躰上の意味に用ひたるを以

無色液質の性

ウエブスター、ナポレオン、第一世、クロンウエル、ピーター大帝

て、茲に之を活質及不活質と譯したり、讀者其心して讀み給へ、

此性の部に博士パウエル氏は無色液質の性、及び頭大質の性の二を論じたり、

無色液質の性に在りては顏色は別に是と申して他の性と異なりたる所なし、立派なるもあり、淺黑きもあり、而して其頭は大にして且つ圓ろし、脣厚く、頬高く、眼は眠むたさふにて、身躰を見るに全身皮肉に水を充たしたるものゝ如し、惣身毛少なし、身躰の表面は始終水分の多く發達する爲め、熱を取り去らるゝゆえ冷たき方あり、凡て其人の運動は遲鈍の風あり、此性過大に發達せしときは大に見にくきものなれども、開化の進歩するに從ひ、此性は多くなるものあり、古來有名なる人物のとを聞くに、一つの性のみを有たず、三四の性を合せ持つ人多かるが、其中には必ず此性は、いりをるなり、米國曠世の辨士ダニエルウエブスターは三割三分此性を有ち、ナポレオン第一世、幷にオリウバークロンウエルに在つては二割五分、魯西亞國をして今日の有樣になしたりと云はる、賢王ピーター大帝は三割三分此の性をもちしと傳ふ」

支那人及和蘭人此性あり

ギリシヤの哲人ソクラテス

此性の尤よく發達せしは支那人及和蘭人に多し、蓋し支那人及び和蘭人が他の國人に比べて勉強心忍耐力に富めるは、是を以て一の重なる原因と云も不可なし、サテ無色液と申すは醫者か、然らざれば生理學をよく研究せられたる方に非れば分り惡きやも知れず、一應說明し置くべし、無色液則ちリンフとは皮肉にもあらず、又た脂肪にも非ず、血液中の水分を云ふ、彼の水胞を潰したるとき出て來る液の類あり、其中には融解したる曹達及び石灰を合有しをれり、

純粹に此性に屬する人にして古來より有名ある人は誠に少なきゆえ茲に引例すべき人を見出す能はず、余は唯一人を出すべし、則ち有名なる希臘の哲學者ソクラテスあり、然しソクラテスは左程著しく此性を有ちしにあらず、故に通例此性の非常に發達したる人の如く、相貌甚だ醜くき人々はあらざりしと云ふ、

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

と叱りけれども、はなの一言で折角新しい衣物をきせて、娘の喜ぶ顔を見んものと望み居たる母親も、氣嫌をそこね、又た少さき弟子達も母親が姉さんの着物を縫ひ居るを見て居りたれば、姉さん等がそれを衣たならばドンナニ立派であらふと思ふて居りしが、今はな子の不平を聞き、そんなに良い衣物でもない樣だと心中に思ひしなるべし、そのとき末子の二歳になるやう／＼立つとの出來る子が泣き始めるのを聞くやはなは又

家の子の樣になく子はないよ

とつぶやけば、姉のさと子は速に去りて、其兒を抱き上げ

ア、良い子だ良い子だ、姉さんの新しいべゝを御覽

と彼ちこちとあるきければ、兒も泣きやみたり、父親は此時始めて室に入り來りけるがさと子に向ひ

さとや、新しい衣物を御覽せ、

と云へばさと子は喜しげに笑いながら走りて、父親の前に立ちければ父親は兩手をさと子の肩にをき、少し離れて衣物をながめ、

ア、、良い衣物だ、別に惡ひ處は少しもない、模樣も實に立派だ、さともはなも一入奇麗になつた樣だ

と云へは幼兒も

いゝべゝだね

とソコデ母親滿面に微笑を含み機嫌を取直したり

英語チーアフルと云ふと

願くは世の娘兒がた、家に在りては何時でも樂しく喜んで何事でもなし給へ、英語チーアフル則ち樂しむと申すとは實に一身に取て幸なとなり、又誰しも自分の心の持ち樣一ツで始終チーアフルになるとが出來るなり、

五、勉勵むべきと

五。勉勵むべきと、一家に一人でも怠惰なものがあれば大に一家の幸福を害するものなり、怠惰であれば先づ日用の必需物さえ充分に備へると能はざるに至らん、左すればをのづと一家に悲を持ち來すとならん、吾人世に生きて在らん限りは決して食物や、衣類に乏しきを告ぐる樣なる事あり

健康と云ふ事

ては實に濟まぬ譯あり、なぜなれば世界の主宰は吾人に充分食すべき物、衣るべき物を備へ給ひたると故、吾人は唯手足を働かして之を取らなければならぬなり、一家の主たる父親は毎日役所に出勤するとか、商賣に從事するとかして家族の衣食を備へ、母親は家に在て家事萬端不都合のない樣に取はからい、子供も毎日學校へ往きて、學問を勉强すると云ふ風に、一人と雖ども怠れる者なく、一家内活潑勉强の風なければ幸福を得ると難し。

食物幷に其調理の事

第四、健康と云ふ事

西洋に一人の大學者ありけるが、其人の申されけるに、

若し世の中に二人とない美人を妻と致し、世界無類の大舘を建て其中に住み、天下第一の金持だけの金を有ち、自由に使ふとを許されたる人あらん、然し若し此人が此の樣なる甘ひ事を許さるゝには先づ年が年中、靴の中に先の尖つた石を二ッ三ッ入れて歩行致しましやうと云ふ事を

不健康は天下の最大愉快を失はしむ

約束せねばならぬなら、誰れもイクラ其樣なるうまい話しでも、私は御斷りで御座ると云ふてあらふ。

と此意味はドンナ些細な事でも身躰の中に不快な事があれば、如何程多の娛樂が出來てもツマラヌ、其不快な事は一分時も忘る事が出來ぬゆゑ、遂に此上なき愉快も少しも愉快と感ぜぬに至ると云ふとを申せしなり、例ば天下第一の名人が催ふす音樂會に招かれて、會の終た後では非常な御馳走があると云ときに、あなた方が若し足に合はないで、足をつりあげる樣な靴を穿いて參會したと假定して見給へ、少も愉快はあらざるべし、その通りで、吾人が此世に生て居るに身躰が丈夫でなければ愉快と申すものは得られざるなり、故に今一家内の愉快はドーシタなら得らるゝやと尋ねられたときは、先づ第一にドーシタならば始終健康を保つことが出來るかと云ふことを研究するが尤も大切と考ふ、

或る御娘子は斯く云はるゝならん

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

附添看病婦募集廣告

本院に於て患者附添の看病婦傭入候條左の各項に合當する志願者ハ本院事務室に申出べし
但給料及勤向等の儀ハ事務室に就き承合すべし

一 常に院内に宿泊する事を得る者
二 近易の文字を讀み及書き得る者
三 年齢滿二十五年以上五十年未滿の者
四 東京各區内に住居せる一家の戸主たる者一名の身元引受人ある者

明治二十二年三月

醫科大學 第一醫院

生徒募集

今般本科專科共通學及寄宿生ヲ許ス且學科ハ和漢文英學習字詠歌經濟衛生理學數學育兒家政茶湯簿記博物圖畫和洋裁縫編物等ナリ志望ノ者ハ至急申込アルベシ

牛込區下宮北町十三番地

私立 開知學舍女子部

竹取物語讀本 全一册

定價三十錢

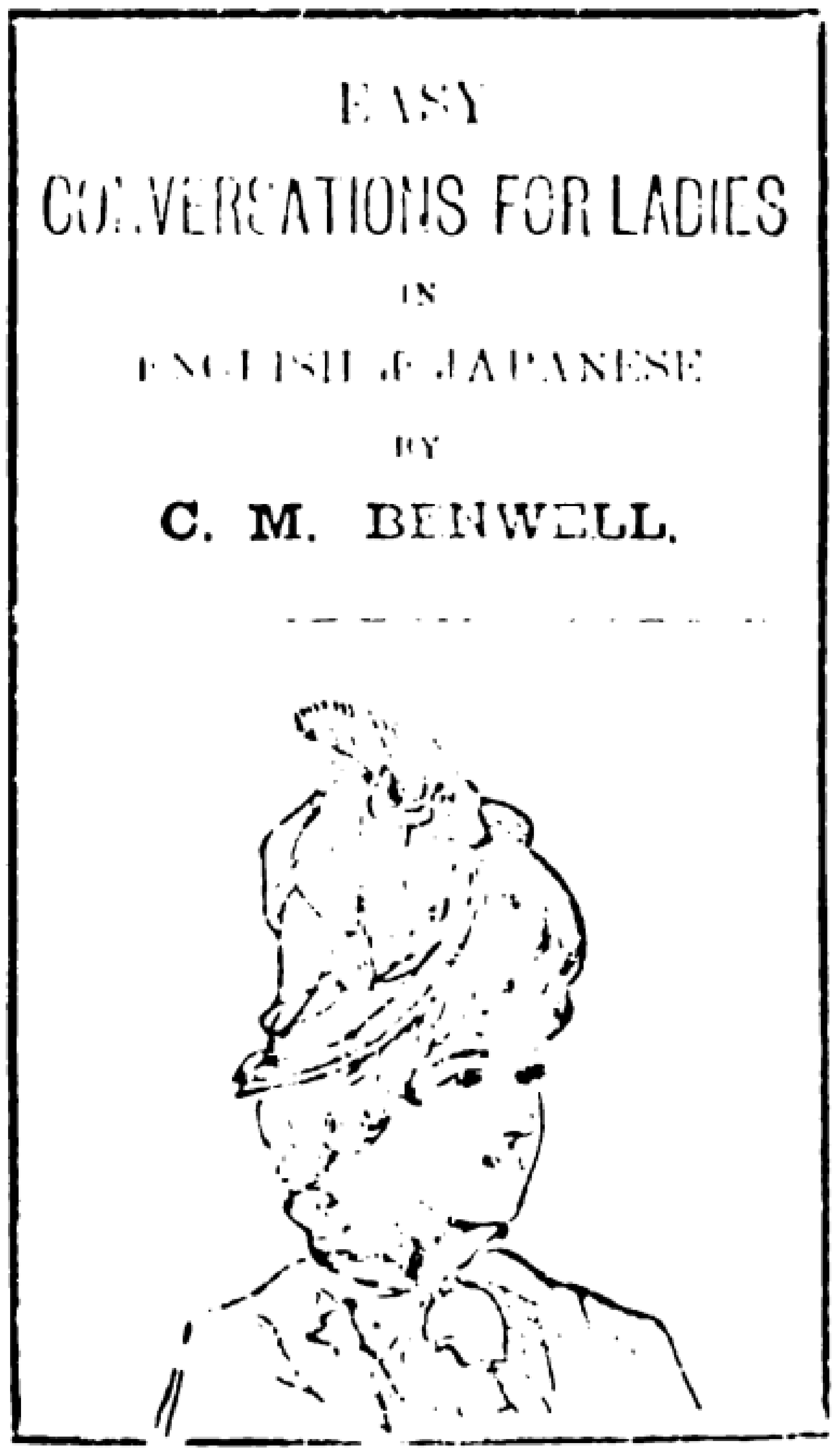
參考 標註

小中村淸矩久米幹文兩大人序あり此物語は各學校敎科書なれど舊本ともには語辭の相違あり又脱文もあるを鈴木大人飽ぬ事に思ひて諸書を校合し悉く訂正して異同を着書し文法を標註し且つ黒川眞頼大人の珍說をも所々に加へたれば此物語の種類中には此右に出る良書は必ずなかるべし

日本橋區本町二丁目十番地

中外堂發兌

但し諸學校にて御入用の分は特別切符を呈し非常に低價にすべし



●貴婦人令孃御渇望ノ貴女會話書落成發賣セリ

○著者ハ英國人シー、エム、ベンウェル孃ナリ
○言語ハ最靜淑上品ニシテ貴女ニ適當セリ
○會話ノ種類ハ新趣向ニシテ最必用ナル者而已ナリ
○校正ハ嚴密ニシテ著者自身ニ幾回ノ閲シ誤字ナシ
○製本印刷ハ最美麗ニシテ體裁最宜ロシ
○定價ハ金十八錢ニシテ郵税ハ六錢ナリ

發賣書肆

東京日本橋區傳馬町二丁目 辻本尚書堂
同京橋區南傳馬町二丁目 辻本尚書堂
大阪南久太郎町四丁目 尚書堂代理店
東京通り三丁目 丸善商社
同表神保町 中西屋

● 產婆生徒募集

本月十二日より產婆生授業候に付き五十名限入學を許す

日本橋區矢ノ倉町十二番地櫻井邸内

私立 東京產婆學校

遞信省認可

吾々姉妹が世に立て當さに盡すべきの義務實に一にーて足らず而して特に日夜懷に忘る可らさるは實に教育の事業、特に精神的教育の事業に在らずんばあらず、京都同志社々長新島襄君は夙に泰西に游び各國文明の神髓は實に教育に在ることを察し歸朝の上は一の大學を起さんとを志し爾來二十餘年間苦心經營復た他事を省みるに遑まあらざりしが大に内外紳士の贊成する所となり事漸く緒に就かんとするを以て懇さに其大學設立の旨趣を天下に公けにし偏ねく全國民の力を假り將さに大に爲すあらんとせり今や世の精神的教育を重んずるの志士仁人は東より西より南より北より猶ほ響の如く之に應じ皆な拮て君が美擧を贊成せんとす庶幾くば君が積年の素志も亦た願さに酬ゆるものあるべき歟嗚呼是れ實に我國前途の爲めに甚だ祝せざる可らざるの擧にあらずや此の時に當て苟くも吾々同胞の姉妹たるもの雲烟過眼徒らに之を看過せば豈に吾々姉妹が世に處するの一大義務に缺くる所なからんや教育は文明の神髓なり一國教育の事業は獨り男子專有の事業にあらざるなり吾々同胞の姉妹爲んぞ其の力を添ゆる所なくして可ならんや吾々今ま此に感ずる所あり來る三月中旬をトし厚生館に於て音樂慈善會を催ふし之が收入を以て聊か大學設立費の萬々一に供する所あらんとす嗚呼世の精神的教育を重んじ新島君の志を贊成せらるゝ吾々同胞の姉妹よ幸ひに吾々が微志の在る所を翼贊せられよ吾々平生、姉妹諸君が博愛の心に富まるゝを知る故に斯擧に於ても亦た固より姉妹諸君が擧て贊成せらるゝを信じて疑はざるなり

開會　三月十四五六三日午后七時厚生館に於て
切符　上等一圓中等五十錢下等三十錢
賣捌　民友社　女學雜誌社

發起人　佐々城豐壽　潮田千世

賛成人　湯淺初　工藤さの　小野寺千賀　徳富靜　相良龍　元良米　伊勢玉　本多孝　小崎千代

生徒募集廣告

定期試業畢る寄宿通學共入學を許す

三月一日

小石川柳町二十七番地
跡見女學校

發兌

三月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
五月。	四日	十一日	十八日	廿五日	
六月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。六錢　郵稅。一錢（但府内無郵稅）
十册。五十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓六十九錢
一年分　二圓六十錢　府外は　三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部増の割合と定む

一行　一回（廿七字詰）　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町駸々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新乘町貢明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋眞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入徐集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町○石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

明治二十二年三月七日印刷
明治二十二年三月九日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY